

減価償却費などを計上しております。

2 款特定環境保全公共下水道事業費用の合計は7,843万8,000円で、公共下水道事業と同じように管渠管理費、管理センター費などを計上。

42ページに進み、3 款農業集落排水事業費用の合計は1 億3,428万5,000円で、今泉及び大久保処理施設の運転点検業務委託料や施設の維持管理費などを計上。

44ページに進み、一番下の段で4 款浄化槽事業費用の合計は1 億501万8,000円で、45ページの浄化槽管理費や減価償却費などを計上しております。

46ページに進み、資本的収入及び支出でございますが、収入の1 款公共下水道事業資本的収入は1 億5,691万9,000円、2 款特定環境保全公共下水道事業資本的収入の合計は3,125万5,000円、47ページに進み、3 款農業集落排水事業資本的収入は1,158万円、4 款浄化槽事業資本的収入は7,244万3,000円それぞれ計上し、収入といたしましては、企業債や一般会計からの補助金などとなっております。

48ページに進み、支出で1 款公共下水道事業資本的支出は4 億5,684万5,000円、49ページに進み、2 款特定環境保全公共下水道事業資本的支出は5,318万7,000円、3 款農業集落排水事業資本的支出は5,919万2,000円、4 款浄化槽事業資本的支出は9,213万円をそれぞれ計上し、支出といたしましては、下水道管渠の布設、マンホールポンプ更新などの工事費や企業債償還金ほかとなっております。

以上が令和7 年度長井市下水道事業会計の概要でございます。よろしくご審査賜りますようお願い申し上げます。

令和7 年度長井市各会計予算案に関する総括質疑

○渡部秀樹委員長 概要の説明が終わりました。

これから質疑を行います。

ここで、総括質疑の発言通告がありますので、順次ご指名いたします。

勝見英一朗委員の総括質疑

○渡部秀樹委員長 順位1 番、議席番号3 番、勝見英一朗委員。

○3 番 勝見英一朗委員 政新長井の勝見です。早速ですが、質問をいたします。

2 款1 項6 目120遊びと学びの交流施設運営事業1 億4,995万7,000円について、地域づくり推進課長に6 点お尋ねいたします。

1 点目ですが、図書購入費401万7,000円についてですが、書店や図書館の楽しみは、新しい本に触れることができるというのが大きいと思います。特に新刊本コーナーは、まず最初に目にしたい場所です。ここで興味のある本に出会ったりすると、すごく得した気分になります。図書館の中ではメインの場所だと思います。そういう気持ちで市立図書館の新刊コーナーに行くのですが、少し物足りなさを感じてしまいます。貸出し中で展示本が少ないのかもしれませんが、本の面出しでスペースを埋めているような感じもします。

そこでお尋ねいたしますが、図書購入費はどのような基準で算出をしているのでしょうか。ジャンル別、あるいは年代に合わせて本を選ぶのか、貸出期間を考えて新刊本は複数購入するのか、そうした図書費算定の基準がありましたら教えてください。

○渡部秀樹委員長 新野弘明地域づくり推進課長。

○新野弘明地域づくり推進課長 お答えいたします。

最初に、図書購入費の状況でございますが、年間2,000冊の一般図書・書籍及び児童書を軸に、そのほか雑誌や新聞など定期購入、イベント関連の書籍購入を見込み予算を計上しております。

以前と比較いたしまして、旧図書館の図書購入費につきましては、全体で344万3,000円、予算に対しまして新聞とかDVD、雑誌を除く純粋な図書購入費につきましては285万円でございます。

今回計上させていただいている令和7年度の予算につきましては、図書購入費全体で401万7,000円のうちに、図書購入費につきましては335万円を見込んでおりまして、以前と比較して予算を多く確保しているところでございます。

図書を購入する際の基準といたしましては、全体の文芸本を6割、児童書3割、実用書1割という形で市のほうで選定して購入しております。

書籍の選定につきましては司書が行っておりますが、遊びと学びの交流施設運営協議会のほうの皆さんのほうからもご意見を聞きながら、徐々に増やしていきたいと考えております。

また、質問にありました新刊コーナーにつきましては、手に取っていただけるように面出しスペースということで確保して配置をしておりますが、貸出し中が多い場合がございますので、少し寂しくなってしまうこともありますので、配置のほうは工夫してまいりたいと思います。

また、そのほかで話題となっております本であつたり、芥川賞、直木賞であつたり本屋大賞、そういった作品の本につきましては、別途計画的に購入しているところでございます。

また、新刊本の複数購入については行っておりませんで、通常、貸出期間14日に設定しておりますが、新刊につきましては7日間に制限して運用しているところでございます。

○渡部秀樹委員長 3番、勝見英一郎委員。

○3番 勝見英一郎委員 了解いたしました。

公立図書館の平均的な図書購入費とか、そうしたデータ等もありますので、それに照らし合わせてお尋ねいたしました。

その空いたスペースのところに本の表紙の写真とかも一緒に貸出し中のような表示をしていただくと、その次に借りたい人などに、貸出期間いつまでこの方が借りているのか分かれば、その次に借りるということも期待するでしょうから、そんなこともぜひ取り組んでいただければと思います。

次に、2点目に入ります。年代別、利用年代についてお尋ねいたします。

図書館の利用状況を見ますと、中高生の大半は学習スペースを利用しているように見えます。もちろん、これは望ましいことですが、一方、図書館の機能として、読書習慣形成にどれだけ役立っているのかということも考えてまいります。

そこでお尋ねいたしますが、年代別の図書貸出件数はどのようになっているか、また、一般に読書離れが指摘される中で、中高生年代の読書習慣の形成にどのように働きかけてこれ、その成果をどう評価されているか伺います。

○渡部秀樹委員長 新野弘明地域づくり推進課長。

○新野弘明地域づくり推進課長 令和5年9月のグランドオープン以降の主な状況でございますが、乳幼児、小学生、あと30代、40代、あと60代の貸出率が高くなっておりますが、現在も変動なくそういった状況でございますが、逆に委員からあつたとおり、中高生の割合が低くなっております。あと、20代も低い状況でございます。

30代、40代、そういった親世代と乳幼児と小学生の利用が多いことにつきましては、隣に子育て支援施設と複合化しておりますので、そういったことで相乗効果が要因で大分増えているものと考えております。

中高生年代の読書習慣を形成するためには、取組といたしまして、読書感想文コンクールへの募集と、あと読書感想文集の各校の配付を通して、読書意欲向上に努めてきたところでございます。

そのほか特徴的な取組といたしまして、学校図書室にない科学道のシリーズなんかを学校に貸し出したしまして、読書意欲向上を図ってきたところでございます。

あと、図書館の中にティーンズコーナーということで配置しておりますが、中高生を対象にボランティアを募りまして、ティーンズコーナーの選書であったり、あと配架、あとポップなども装飾なども行っていました。こちらは昨年の7月から12月ぐらいまで計6回、中学生のボランティア6名が参加してやってくれました。

現在はティーンズコーナーに立ち寄る中高生であったり、図書館利用カードを作る中高生が以前よりも増えていると感じておりますので、大分入館しやすくなったと思われしますので、引き続き、中高生の心や意識に響く取組を継続することが重要であると考えております。

そのほか、図書館を身近に感じて、足を運びたいような情報発信、イベントを工夫していきたいと考えております。

あと、各小・中学校の図書についても蔵書数は増えておりますので、長期の休み前には本を借りるなどの取組も各学校のほうで行っていただいておりますし、あと、小学校の要望で図書館整理も頼まれることあるんですけども、「くるんと」の休館日には図書館の司書がお邪魔いたしまして、学校の図書の整理も行っているところでございます。

○渡部秀樹委員長 3番、勝見英一朗委員。

○3番 勝見英一朗委員 特に高校生年代の読書率が非常に低くて、どういう統計取ってもそうなんだろうけれども、小学校はかなり高いん

ですが、中学校から下がってきて、高校になると小学生の何分の1にも満たないような、ただ、勉強が忙しいからという理由もあるんでしょうけれども、それだけでもないという気もいたします。図書館によっては本の選書に高校生年代が入ってきたり、あるいは図書館の中で本の紹介を高校生がやったりということも取り入れているようですので、なお一層の中高生年代の読書習慣に力を入れていただきたいと思います。

3点目に入ります。3点目ですが、事情があって図書館に来られない方、あるいは視覚障がいのある方などにも図書館を利用していただくためには、書籍の電子化や音声読み上げ機能が望まれると思います。そうした電子化や電子図書館は、徐々にではありますが広がっていくものと思います。本市においても、できる範囲で電子化や電子書籍のウェブ上での貸出しなど進めるべきと考えますが、どのようにお考えか伺います。

○渡部秀樹委員長 新野弘明地域づくり推進課長。

○新野弘明地域づくり推進課長 電子書籍に関しましては、図書館の傾向として、まず有効かどうか、ちょっと詳細をこれから検討しなくてはいけないと考えております。

また、書籍購入よりも高額になる可能性がございますので、また、本については市の財産となって手元に残るんですが、電子書籍につきましては手元に残らないという課題もございますし、あと、著作権の関係もございまして、全ての本が電子書籍の対応とならないような状況もあるようでございます。

日本の公共図書館向けの電子書籍サービス「LibrariE」でございますが、そういった書籍サービスでございますけども、24時間利用可能であったり、貸出し、返却が自動だったりとメリットがある一方なんですけども、サービスが終了いたしますと手元に残らないということがございますし、また、予算も結構かかるとお

聞きしておりますので、導入には検討を進めていく必要があると考えております。

また、図書館に来られない方の対応といたしまして、視覚障がい者ということがございましたけれども、まずは電子書籍の利用については、そういった団体の方からいろいろご意見をお伺いしながら、今後、具体的な検討を進めてまいりたいと思います。

また、県内で導入している実績でございますが、県立図書館、そして東根の図書館のほうで導入の実績ございますので、導入の状況を見てみますと、それほど借りられているような感じではございませんが、具体的に情報を収集しながら、今後、検討してまいりたいと思います。

○渡部秀樹委員長 3番、勝見英一郎委員。

○3番 勝見英一郎委員 この件は特に障がいをお持ちの方の読書に関してということになるかと思ひます。

例えば、サピエ図書館、片仮名の「サピエ」ですが、これはサピエというのはラテン語の「知識」という言葉を表していますが、これは視覚に障がいのある方のための電子書籍をウェブ上で提供している組織なんです、これは全国的な組織で、例えば山形県ですと、図書館としては県立図書館だけ、あと2つの施設が登録していて、その登録した施設を通して、例えば視覚障がいの方がそうした電子書籍を手にすることができる、無料で利用できるというものもあるんですけれども、そうした障がいをお持ちの方に対してのバリアフリー法も2019年に施行されておりますので、そうしたことを受けた対応などもぜひ進めていただければとは考えておりましたので、この件は、それに関連して質問させていただきました。

次に、4点目の質問に入ります。公立図書館ですが、市内企業の紹介コーナーを設けてはどうかということについて伺います。

図書館によっては、郷土コーナーの中に企業

情報を展示しているところもあるようですが、郷土コーナーは中高生にとって、まれに社会科の学習などで訪れることはあっても、足を向ける機会は多くないと思ひます。

小・中・高生の段階で、市内企業の情報に接する機会を増やすことは大事なことでありますので、小・中・高生が足を運ぶ場所に市内企業紹介コーナーを設け、企業のパンフレットを置いたり、できれば期間ごとに企業の製品を置いたりして興味を引くことを行つてはどうかと考えますが、そういうお考えはないか伺ひます。

○渡部秀樹委員長 新野弘明地域づくり推進課長。

○新野弘明地域づくり推進課長 「くるんと」館内のエントランスホールから見えるところに展示コーナー、棚を設置しておりますが、あそこについては市内の各所から展示依頼があると見込み設置したところでございます。その展示コーナーにつきましては、多くの個人、あとは法人に興味いただいております、また、たくさんの集客力を見越して多くの方が展示関連のお話に、常に指定管理者のほうに問合せ等いただいておりますので、その中で長井市内の企業からも問合せをいただくことがございます。

現在は、けん玉などを展示しておりますが、期間を設けての展示をすることも可能としておりますので、展示につきましては指定管理者と、例えば長井商工会議所も含めてちょっと検討してまいりたいと考えております。

また、市内の企業を知ってもらういい機会だと思いますので、棚を設けるということもござひますが、会議所のほうと調整しながら、例えばデジタルサイネージなんかも活用して、図書ほかに、そういった媒体も使いながらPRできるように検討してまいりたいと思ひます。

○渡部秀樹委員長 3番、勝見英一郎委員。

○3番 勝見英一郎委員 検討していただければと思ひます。

図書館によっては、ビジネス支援の中で企業

の紹介コーナーを設けていて、例えば大阪の図書館、大阪市立中央図書館ですが、市内の会社に、あなたの会社のパンフレット、写真を図書館に提供してくださいと呼びかけて、頂いたものはファイリングして展示しておくということもされております。そんな形で、いろんなところでビジネス支援は行われておりますし、地元企業の支援の一つとして取り組まれているようですので、本市にとってもそのような形があればなと思ひましてお尋ねをいたしました。ぜひ検討を進めていただければと思います。

次に、5点目の質問に入ります。地域資源活用コンテンツ作成等業務1,000万円について伺います。

この業務は、昨年度は590万円、今年度は1,080万円を充てており、令和7年度は3年目の事業になります。この間、2,600万円余りがかかることになるのですが、どのようなコンテンツがつくられているのでしょうか。そのコンテンツはどこが所有し、誰に活用されているのか、令和8年度以降も続ける予定なのか。とすれば、どんなコンテンツを目指そうとしているのかお尋ねいたします。

○渡部秀樹委員長 新野弘明地域づくり推進課長。

○新野弘明地域づくり推進課長 デジタルコンテンツにつきましては、デジ田交付金のほうを活用させていただきまして、事業を複数年で実施をしているところでございます。

本事業につきましては、探求学習と、そこに付随したコンテンツを作成する、そういったことによって長井市のにぎわいを生み出すためにを行っている事業でございます。

委託先につきましては、指定管理者のエムシーアイのほうに委託しておりまして、そこからさらにアルカディア編集社、そして協力いただいている東京に本社があります株式会社探求学舎にも協力いただいて、コンテンツ作成を行っているところでございます。

具体的な内容といたしましては、小・中学校の親子連れをターゲットにいたしまして、長井市独自のコンテンツを活用した探求学習事業を現在も行っているところでございます。探求学習につきましては、図書館の資料を基にいろいろそういった事業を行っていただいたり、あと、実際に現場の取材を行いながら長井市のコンテンツ作成、あるいは動画作成としても作成をしているところでございまして、こちらにつきましては、動画作成したものとしましては、ウェブ上に将来的に発信しながら、市内、市外を問わず、本市へ来訪される方にも情報を発信していきたいと考えているところでございます。

また、具体的にコンテンツの作成につきまして、今行っている中身を言いますと、長井市の市技、けん玉についてスポットを当てまして、長井市の親子が探求学習の面から興味を持ってもらえるような、約1時間の動画の作成を今準備をしているところでございます。

あわせまして、探求学習への興味関心を持っていただいている親子に、民間の企業を借りまして、これは探求学舎のほうの登録者のところに約6万人の世帯がいらっしゃるからお聞きしておりますので、そういったところにも情報を発信しながら、長井市のほうに来ていただくような取組も併せて行っているところでございます。

来年度につきましては、今、作成しておりますコンテンツ動画の配信を民間企業と連携しながら行うとともに、長井市で行う探求学習の教育素材としても活用しながら、引き続き来年度もそういった取組を進めてまいりたいと考えております。

あと、著作権につきましては、作成したコンテンツ動画につきましては、基本的に全て長井市が著作権を持つこととなりますので、いろんな場面で活用していきたいと考えております。

また、令和8年度以降の事業実施につきましては、令和7年度の事業評価を行いまして、今

後、検討してまいりたいと思います。

○渡部秀樹委員長 3番、勝見英一朗委員。

○3番 勝見英一朗委員 金額的には相当でして、例えば公設の塾などもあったらなと思ったりするんですけども、それなども、例えば土日で午前の9時から12時まで3時間、4人の誰か先生をお願いをして、5,000円ずつお願いすると4人だと2万円で、土日で4万円で、50週やったとしても200万円ですか。ですから、この金額からすると、公設の小学生向けの塾なども十分に可能なものでして、これだけの金額を充てていますので、そのコンテンツについては、該当する聴講した受講した親子というだけではなくて、長井市全体に波及するような形のものにしていかなければ、これだけの金額を充てたものにはならないような気もいたしますので、ぜひ今、令和7年度に評価をしながら令和8年度というお話でしたので、今年度の評価につきましても関心を持ってまいりたいと思いますので、ぜひそういう視点で進めていただければと思います。

最後に、6点目に入ります。市内書店との連携について伺います。

近年、書店のない自治体が増えていることが社会的な話題となっております。幸い本市には書店があるのですが、もし書店がなくなったら、まちの大切な機能が失われたに等しい喪失感を覚えることは間違いないと思います。書店も一民間事業者ではありますが、一つの文化的資産として維持を図ることは重要と考えます。

各自治体においても、公立図書館と書店との連携が様々見られるようになってきました。例えば、新刊を注文する場合は、書店を通して購入するとか、図書館で借りた本を書店で返却できるようにし、住民が書店に足を運ぶ機会をつくるとかの取組もなされております。

本市でも、図書購入の際に書店を通すなど配慮されておりますが、図書館と書店双方にとっ

て有益となるような連携をこれまでどのように図ってこられたか、また、さらに進める考えはあるか伺います。

○渡部秀樹委員長 新野弘明地域づくり推進課長。

○新野弘明地域づくり推進課長 まちの書店とはこれからも連携しながら密にやっていきたいと考えておりますし、あと、新刊につきましては、もちろん郷土に関わるような資料であったり整備したい書籍などにつきましては、全て地元の書店から購入しているところでございます。

また、昨年行いました柚月裕子さんの講演会の際にはサイン会を実施いたしました、その際に地元の書店のほうと連携させていただいて、書籍販売、調達等も行っていたところでございます。

あと、読書感想文コンクールにつきましては、地元書店にご後援をいただいておりますし、あと、そういった形で連携をさせていただいております。

引き続き、様々な面で地元の書店と連携しながら進めていきたいと考えております。

当初、図書館、TSUTAYAで入るという話もあって調整した経過がございますけども、人口規模から断られた経過がございますが、結果といたしまして、市内の書店と連携をとることから考えれば、逆によかったのかなと考えているところでございます。

市内でこれから講演会であったり演奏会等々を開催した際には、関連した書籍であったりDVD、そういったものを置いていただけるような連携も今後図ってまいりたいと思いますので、引き続き、連携を密にして行ってまいります。

○渡部秀樹委員長 3番、勝見英一朗委員。

○3番 勝見英一朗委員 細かいところは省きますが、文部科学省はもちろん関わるし、そして経済産業省なども公立図書館と、それから書店との連携についてはしっかりとやるような方向で動いておりますので、ぜひ本市においても、

それから図書館と書店との連携の在り方などについてはいろんな方法が各地で行われているようで、例えば図書館の装備についても、その装備を地元の書店から購入した図書の装備品などを、地元の福祉事業所をお願いして、福祉の事業として装備をしていただく、例えば本のブックカバーとか、そういうことも福祉連携も行われているようですし、いろんな形がありますので、ぜひ進めていただければと思います。

以上で私からの質問は終わります。

内谷邦彦委員の総括質疑

○渡部秀樹委員長 次に、順位2番、議席番号9番、内谷邦彦委員。

○9番 内谷邦彦委員 政新長井の内谷邦彦です。明確な回答をよろしく願いいたします。

10款教育費、5項保健体育費、1目保健体育総務費、010総合型地域スポーツクラブ支援事業、市民に対する健康づくり事業の提供に対する支援、令和6年度予算が550万円、令和7年度の予算がゼロ円となっております。スポーツ支援事業の運営について、健康スポーツ課長にお伺いします。

最初に、令和7年度の予算がゼロ円となっておりますが、どのように対応していくのかを伺います。

○渡部秀樹委員長 鈴木幸浩健康スポーツ課長。

○鈴木幸浩健康スポーツ課長 お答えをいたします。

総合型地域スポーツクラブに関わる予算につきましては、国の新しい地方経済・生活環境創生交付金を活用した、マラソンを核とした生涯活躍のまち推進事業の一つと位置づけております。この事業は、市民ひとり1スポーツの推進をスポーツウエルネスの視点を踏まえ、総合的

に取り組む予定をしておりますので、当初予算ではなく、議会の最終日に補正予算として提案させていただきたいと考えているところでございます。

○渡部秀樹委員長 9番、内谷邦彦委員。

○9番 内谷邦彦委員 次に、主要な施策成果報告書を確認しますと、令和4年度の利用会員が600人、令和5年度が587人、その中でシニアの方の利用人数は、令和4年度が62人、令和5年度が67人となっております。特にシニア以上の方々の参加が非常に少ないと考えますが、どのように考えているのか伺います。

○渡部秀樹委員長 鈴木幸浩健康スポーツ課長。

○鈴木幸浩健康スポーツ課長 総合型地域スポーツクラブ、花スポと呼ばせていただきますけども、花スポでは65歳以上の方をシニアとしております。花スポのシニアの会員は少ない人数となっておりますけれども、健康増進計画策定時におけるアンケート結果では、70歳以上の方で運動を心がけている、時々心がけている方の割合は77.9%となっておりますので、多くの方が何らかの運動を行っているものと捉えております。

なお、スポーツ、運動の習慣づくりは健康寿命の延伸につながるものでございますので、運動に取り組みれていない方、新たな運動への取組を考えている方が参加したくなるような魅力アップを図り、より多くの方に参加していただけるような事業としてまいりたいと考えております。

○渡部秀樹委員長 9番、内谷邦彦委員。

○9番 内谷邦彦委員 そのシニアの参加者の男女別とか年代別とか分かれば教えてください。

○渡部秀樹委員長 鈴木幸浩健康スポーツ課長。

○鈴木幸浩健康スポーツ課長 令和5年度のシニアの会員の方でございますが、67名で、その内訳は男性が4人、女性が63人となっております。年齢では65歳から69歳の方が31人、70歳から79